

制御棒引き抜け事象に関する対策と今後の対応の概要

1. 抽出した運用面（ソフト）の対策

- ・ 水圧ラインの弁操作においては、水圧ラインの圧力や制御棒位置等の監視を確実に実施する。
- ・ 水圧ラインの弁操作手順を見直し標準化を図る。
- ・ 水圧ラインの圧力上昇を示す警報が発生した際の対応を明確化する。
- ・ 水圧ラインの弁を多数操作する機会を減らすための手順等も含めてプラント停止中の作業を検討する。

2. 抽出した設備面（ハード）の対策

- ・ 水圧ライン圧力の「高」または「低」を検出した際に発生する警報が「高／低」の一つになっているプラントは、制御棒引き抜け防止の対応に重要な「高」警報を明確化するために警報を分離する。
- ・ 一層の信頼性向上のために、仮に水圧ライン圧力が何らかの原因で上昇した場合に自動で圧力上昇を防止するよう詳細検討を実施した上で設備改造を行う。

3. BWRプラント所有の電力会社における今後の対応

- ・ 運用面の対策のうち手順書の改訂等については、各社速やかに進め、順次運用に入る。また、プラント停止中の作業については、今年度上期中を目途にBWR事業者協議会で検討を行い、その結果を踏まえて対応する。
- ・ 設備面の対策のうち警報の分離については、警報が分離されていないプラントは至近の定期検査で実施する。また、水圧ラインの圧力上昇防止に向けた設備の改造は、各社の設備や運用への適合性を勘案し適切な対策を選択した上で順次行う。